

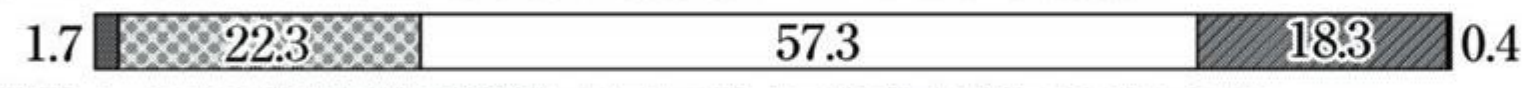
# 数字でみてみよう

## 次期学習指導要領 教育現場の反応は？

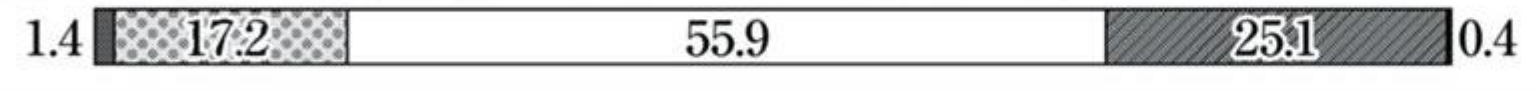
先生たちに尋ねました (数字は%)

■ とても自信がある ■ まあ自信がある □ あまり自信がない  
■ まったく自信がない ■ 無答・不明

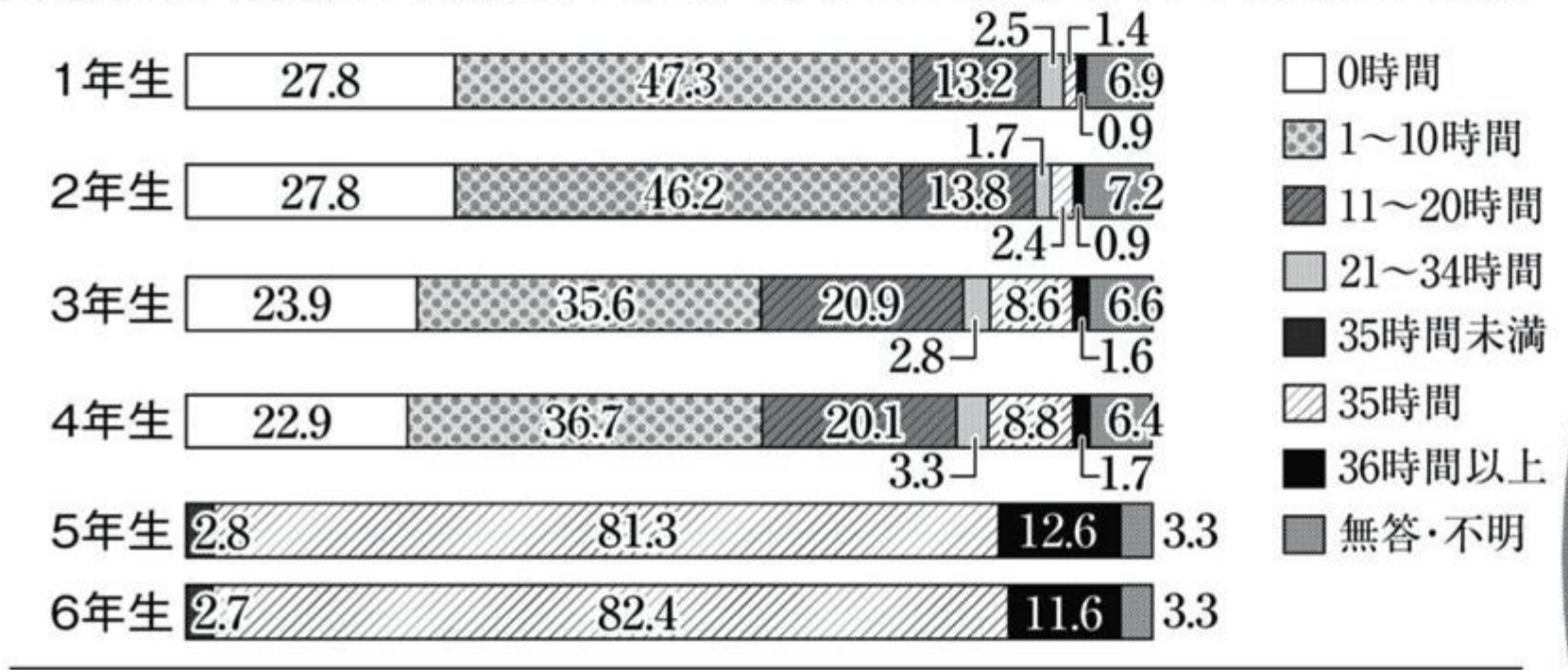
◎現在の英語の授業や活動を指導することに自信がありますか



◎教科としての英語を指導することに自信がありますか



◎英語の授業や活動を年間どれくらい行っていますか【小学校(校長回答)】



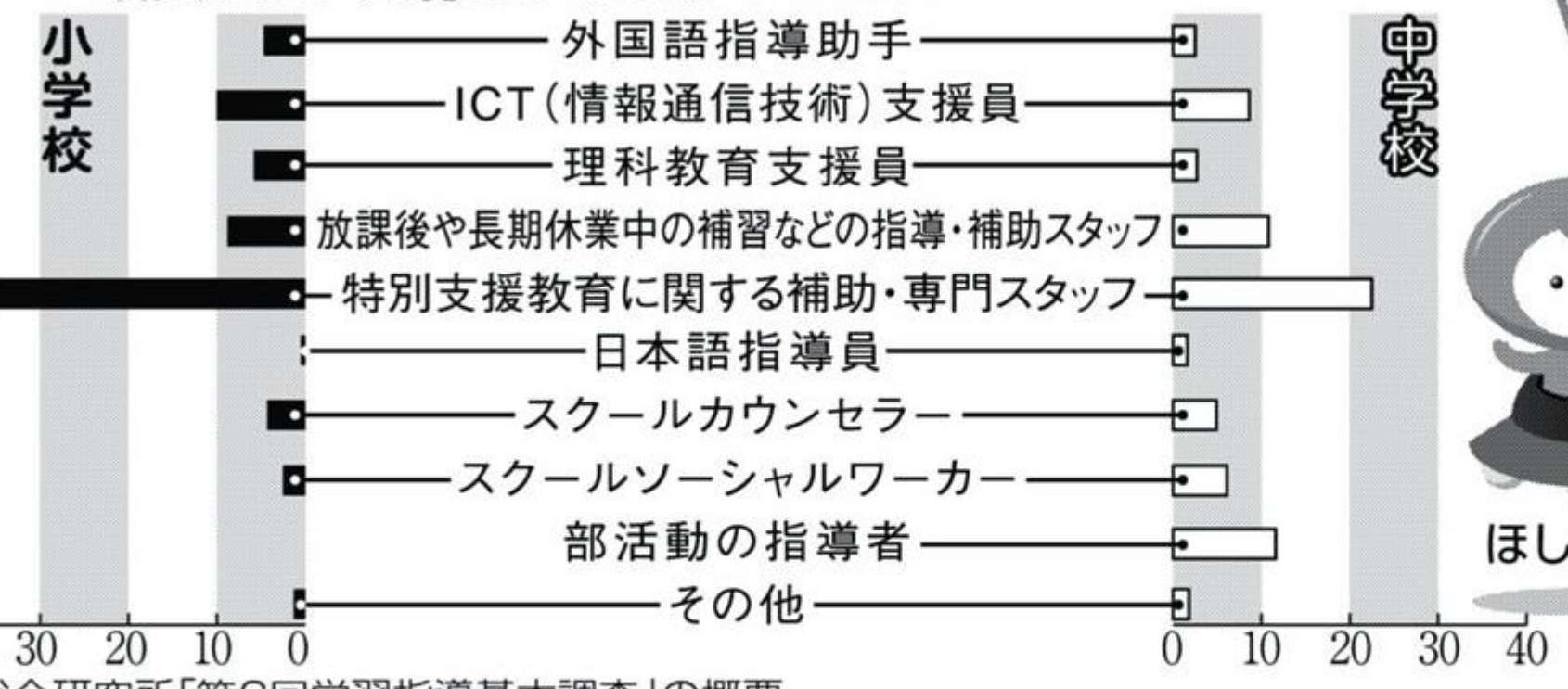
新しい教育課題への  
対応が求められるね



先生たちへのサポートも  
必要なのかな



◎増員したい人材はいますか(校長回答)



※ベネッセ教育総合研究所「第6回学習指導基本調査」の概要

# 授業は「英語で」準備OK?

「Talk with our friends」。1月にあった福井県勝山市立勝山北部中の1年生の授業。女性教諭が、正月や大みそかをどう過ごしたか伝え合っとう、生徒に呼び掛けた。

文部科学省が2月に公表した次期学習指導要領の改定案で、中学校の英語の授業は「英語で行うことを基本とする」と明記された。教室の光景が大きく変わりそうだが、指導に不安を抱える教員も多い。各地の学校で工夫を凝らした授業の模索が続く中、「いかに生徒が英語を話すきっかけをつくるかが重要だ」との指摘が出ている。



福井県勝山市の市立勝山北部中の英語の授業で教える教諭

## 中学の学習指導要領改定案

### 生徒が話す仕組みカギに

ただ、生徒が英語で話したこと、話せることには差がある。ある生徒が年越しそばを「1月2日の朝に食べた」と日本語でつぶやくと、教諭は「In English h?」「みんなで協力しよう」と提案。生徒たちは意見を出し合い、英文を完成させ、全員で復唱した。「英語は英語で学ばせるのが基本。生徒の日本語での発言にも、英語で返すよう心掛ける」と教諭は話した。文科省が、授業の原則英語化を打ち出したのは「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」(改定案)という狙いがある。ただ、この教

諭のような授業をできるのは少数派とみられる。文科省の平成27年度調査では、授業での説明や声掛けなどの半分以上を英語でした中学校の教員は約5割にとどまる。さらに、英語に慣れ親しませるのが主眼の小学校段階とは違い、中学校では文法など説明内容も高度になる。「英語の指導で、生徒にどこまで伝わるのか不安だ」(西日本の50代の女性教諭)という思いは、多くの教員が共有している。不安解消のため、文科省は教員研修に力を入れる。委託された英国の国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが今年1月に大阪市で開いた研修では、生徒が授業中に2人一組で行う英語の授業例が紹介された。講師は教員たちに、授業の進め方自体も、簡単な英単語やジェスチャーを用いて説明。参加者からは「説明の仕方も授業の参考になりそう」との感想が漏れた。ある教育委員会の担当者は「単に教員が英語で話すだけでなく、生徒が英語を発するよう仕向ける授業の工夫が大事になってくる」と指摘した。